手原駅開業100周年記念展

街道から鉄道へ

会期 令和4年 9月17日(土)～11月6日(日)

9時30分～17時（ご入館は16時30分まで）　入館料／無料

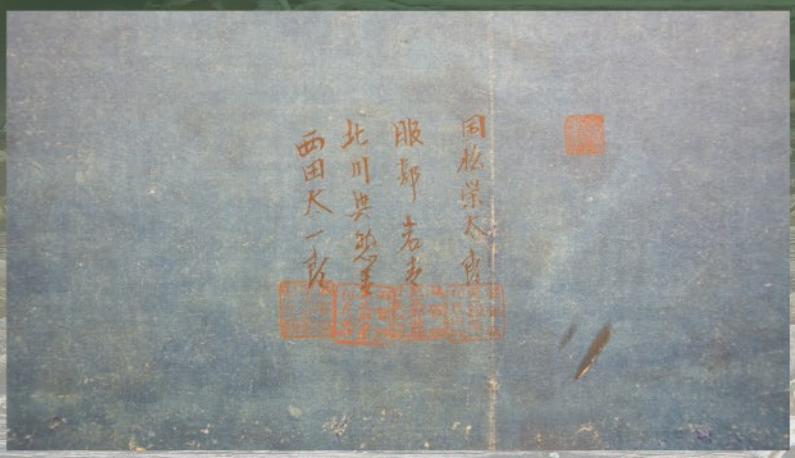
会期中の休館日 月曜日（9月19日、10月10日をのぞく）・9月20日（火）、10月11日（火）、11月4日（金）

主催：栗東市、栗東市教育委員会

関連企画

展示解説会 9月17日（土）、10月15日（土）、11月5日（土）いずれも14時から（1時間程度）

手原村全図（明治20年代）



石部草津間停車場新設々計平面図（部分）（『里内文庫資料』のうち）
（左から）大宝・治田・金勝・葉山4か村の村長連名部分

栗東歴史民俗博物館

滋賀県栗東市小野223-8

TEL 077-554-2733

FAX 077-554-2755

http://www.city.ritto.lg.jp/hakubutsukan/

大正11年（1922）11月5日、開業当日の手原駅

新型コロナウイルス感染症対策の一環として、事業を延期または中止する場合がございます。事業開催に関する状況は、事前に栗東歴史民俗博物館までお問い合わせ下さい。

祝 手原駅開業100周年

～“栗東”の歴史はここから始まった！～

JR草津線手原駅

通勤・通学の時間帯を中心に多くの人々が利用する、JR 草津線の手原駅。

栗東観光案内所も置かれ、栗東市の玄関口になっている手原駅の開業は、大正 11 年（1922）11 月 5 日。令和 4 年（2022）で **100周年**を迎えます。

手原駅が開業した頃のことを振り返ってみましょう。

「手原に駅を！」と最初に声を上げたのは、葉山村手原の人々。大正 8 年（1919）に手原駅創設期成会を発足させると、葉山村議会に新たな駅（手原駅）の設置の企画を提出しました。葉山村議会ではこれを可決し、翌大正 9 年（1920）には、**治田・金勝・葉山・大宝**の 4 つの村の村長の連名により、神戸鉄道局へ新たな駅の設置の請願を行っています。

里内 勝治郎（1877～1956）

手原駅創設期成会メンバーの 1 人が、手原に生まれた郷土史家・里内 勝治郎（1877～1956）で、彼が遺した郷土資料コレクション『里内文庫資料』（滋賀県指定有形文化財）には、手原駅の設置に関わる資料も多く含まれています。

地元の人々の情熱的な活動の甲斐もあって、手原駅は大正 11 年（1922）4 月に着工し、同年 11 月 5 日に開業しました。

ここで注目しておきたいのは、手原駅の開業は、のちの昭和 23 年（1948）に組合立の栗東中学校を開校させ、昭和 29 年（1954）には合併して**栗東町**となる**治田・金勝・葉山・大宝**の 4 つの村が、協力して成し遂げた一大事業であったということです。

100 年前に成し遂げられた手原駅の開業は、現在まで続く**栗東**というまちのあゆみの第 1 歩だったのです。

「手孕伝説」と手原駅

源平布引滝絵看板
（館蔵『里内文庫資料』№357-3）

手原の地名は古くは「手孕村（てはらみむら）」と書かれ、女性の腹に手を置いていたら赤ん坊が産まれた、あるいは女性が手を産んだという少し奇妙な伝説（「手孕伝説」）由来とされています。

手原の地名と手孕伝説は、街道が発達した江戸時代には全国に知られるようになり、名所図会などの出版物でも紹介されました。また、人形浄瑠璃の「源平布引滝」の題材としても取り入れられた手孕伝説は、歌舞伎でも上演されることとなり、古典楽劇の世界でも有名な存在となっていきます。平成 16 年（2004）に実施された手原駅の改築工事では、駅のデザインが公募され、地元の人の発案により、「源平布引滝」で手孕伝説の舞台となる入母屋造りの民家をイメージした外観が採用されました。また、駅前には手孕伝説をモチーフにしたモニュメントも建てられています。かつて、街道を通じて全国に知られ、古典楽劇の世界で親しまれた手孕伝説は、地域のシンボルとしてよみがえりました。